



一般財団法人キヤノン財団 第11期事業報告書

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)



キヤノン財団
The Canon Foundation

第11期事業報告書 INDEX

当年概況:年間活動実績	01
当年概況:年間活動実績	02
研究助成事業概要	03
研究助成事業概要	04
「産業基盤の創生」選考委員	05
「理想の追求」選考委員	06
研究助成活動	
今年度募集・選考研究助成	07
第10回研究助成募集	08
「産業基盤の創生」募集分野の細目	09
「産業基盤の創生」募集結果	10
「理想の追求」募集結果	11
選考結果	12
今年度採択研究助成	13
第9回研究助成	14
第9回研究助成金贈呈式	15
今年度終了研究助成	16
「産業基盤の創生」研究終了	17
第7回「産業基盤の創生」研究成果報告会 プログラム	18
「理想の追求」研究終了	19
第6回「理想の追求」シンポジウム プログラム	20
知財財産講習会・アウトリーチ(外部向け講演会)	21
広報活動	22
リユニオン	23
「研究助成プログラムの刷新」と「ビジョン&ミッションの再定義」 24	
過去からの研究助成実績	25
第1回(平成22年)研究助成先	26
第2回(平成23年)研究助成先	27
第3回(平成24年)研究助成先	28
第4回(平成25年)研究助成先	29
第5回(平成26年)研究助成先	30
第6回(平成27年)研究助成先	31
第7回(平成28年)研究助成先	32
第8回(平成29年)研究助成先	33
採択実績推移	34
会計報告	35
正味財産増減計算書	36
貸借対照表	37
キャノン財団 概要	38
設立趣意	39
ビジョン/ミッション	40
財団概要	41
評議員・理事・監事 一覧	42

当年概況：年間活動実績

当年概況:年間活動実績

第11期(平成30年)年間活動実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
評議員会・理事会			▼ 第10期事業報告 第9回研究助成決定 ▼ 理事改選 新理事長選任								▼ 第10期経過報告 第11期事業計画	
助成研究対応				▼ 第9回贈呈式 ▼ 研究助成金出金								
助成研究成果報告						第8回研究助成先訪問				第9回研究助成先訪問		▼ リユニオン
助成研究成果報告						第6回「理想の追求」シンポジウム		▼ 第7回「産業基盤の創生」研究成果報告会				
第10回募集～選考	▼ 「理想の追求」課題発表		▼ 募集要項公開			「産業基盤の創生」募集期間 「理想の追求」募集期間		書面審査		▼ 一次選考会	▼ 二次選考会(面接)	▼ 第10回研究助成候補決定
広報アウトリーチ						学会誌、学会HPへの募集案内掲載 ▼ 大学・研究機関窓口への案内メール			▼ 出版募集(次年度)			
研究助成テーマの刷新						▼ 選考委員懇談会		▼ 選考委員検討会			▼ 理事会経過報告	

研究助成事業概要

研究助成事業概要

研究助成事業概要

キヤノン財団は「人々の暮らしを支え、人間社会が将来も発展していく基盤である産業」の礎となる研究、人類の英知を深め持続的な繁栄を目指す研究に対して助成を行う。

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を興すことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。このような分野として、ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンス(注)があげられる。また、社会的に複雑で難しい課題を解決するために、分野間の知的な触発や融合を図る挑戦的な新興・融合テーマなども対象として含める。日本の経済発展には地域の活性化が不可欠。キヤノン財団は特に地域の活性化に貢献する研究を重点的に支援する。地方に位置する大学等の研究を支援するとともに、中央に位置する大学等の研究であっても地域の活性化を目指す研究について支援する。

(注) 09ページの募集分野の細目表をご参照。

経済発展を促すような科学技術分野

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

健康・医療・生命科学

マテリアル・デバイス・プロセス

バイオテクノロジー

環境・資源・エネルギー

サービスサイエンス

研究助成プログラム「理想の追求」

このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点からキヤノン財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦する先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。2018年度の研究課題は昨年に引き続き「食に関する研究」。食に関する研究はいろいろな観点から、今見直されるべき時に来ている。本プログラムでは、次のような課題に向けて取り組む研究プロジェクトを助成の対象とする。

食に関する研究

飢餓と飽食

食の安全保障

第6次産業化

食の文化と健康、美味しさ

食の安全性と流通

「産業基盤の創生」選考委員

「産業基盤の創生」プログラム概要

「人々の暮らしを支え、人間社会が将来も発展していく基盤である産業」の礎となる研究に対して助成する。日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を起こすことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。また、地域の活性化に貢献する研究にも重点を置き、地方に位置する大学等の研究及び、中央に位置する大学等の研究で地域の活性化を目指す研究を支援する。

応募分野：

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンスなど

助成金額：

新規採択総額「理想の追求」と合わせ2～3億円、1件の上限1,500万円

研究期間：

1年または2年

「産業基盤の創生」選考委員

(2018年4月1日現在、五十音順)

選考委員	氏名	現職
委員長	長田 義仁	理化学研究所 基幹研究所 客員主管研究員、北海道大学名誉教授
副委員長	伊東 一良	大阪大学 産学共創本部共創人材育成部門 招聘教授、大阪大学名誉教授
	片岡 一則	川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター センター長 東京大学政策ビジョン研究センター 特任教授
委員	荒川 薫	明治大学 総合数理学部 教授
	安藤 功兒	産業技術総合研究所 名誉リサーチャー
	稲葉 雅幸	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
	大西 公平	慶應義塾大学 ハプティクス研究センター 教授
	岸田 晶夫	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授
	喜連川 優	国立情報学研究所 所長、東京大学 生産技術研究所 教授
	小長井 誠	東京都市大学 総合研究所 特任教授、東京工業大学名誉教授
	宝田 恭之	群馬大学 大学院理工学府 特任教授
	谷本 正幸	名古屋産業科学研究所 上席研究員、名古屋大学名誉教授
	中條 善樹	京都大学名誉教授
	半田 宏	東京医科大学 ナノ粒子先端医学応用講座 特任教授、東京工業大学名誉教授
	深水 昭吉	筑波大学 大学院生命環境科学研究科 教授
	藤田 静雄	京都大学 大学院工学研究科 教授
	安岡 善文	東京大学名誉教授
	山地 憲治	地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長、東京大学名誉教授

「理想の追求」選考委員

「理想の追求」プログラム概要

人類の英知を深め永続的な繁栄を目指す、科学技術を核とした総合的な研究プロジェクトに対して助成する。このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点から当財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦し、大きなイノベーションを起こすことが期待できる、先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。第8回研究課題は、第7回に引き続き「食に関する研究」とした。

「食に関する研究」の研究課題：

- (1) 飢餓と飽食 (2) 食の安全保障 (3) 第6次産業化 (4) 食の文化と健康、美味しさ
(5) 食の安全性と流通

応募条件：

- (1) グローバルな視点で、食に関わる本質的な課題を提案すること
(2) 研究プロジェクトは、異なる研究分野や異なる研究機関の国内外の研究者と協力して
科学技術を核とした異分野融合チームを組んでテーマに取り組むこと

助成金額：

新規採択総額「産業基盤の創生」と合わせ2～3億円、1件の上限3,000万円

研究期間：

原則3年

「理想の追求」選考委員

(2018年4月1日現在、五十音順)

選考委員	氏名	現職
委員長	大垣 眞一郎	水道技術研究センター 理事長、東京大学名誉教授
	有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授、科学技術振興機構 上席フェロー
委員	黒川 清	政策研究大学院大学名誉教授、東京大学名誉教授
	所 眞理雄	(株)オープンシステムサイエンス研究所 代表取締役社長
	西澤 直子	石川県立大学 生物資源工学研究所 特任教授、東京大学名誉教授

研究助成活動
今年度募集・選考研究助成

第10回研究助成募集

(1)「産業基盤の創生」募集要項

前回は募集分野の表現を見直し、学術的分野から研究の出口を意識した表現に変え、また各募集分野の細目表も付けたことで、より分かりやすくなり、応募も急増したことから、今回もそれを踏襲することとし、細目表の一部の表現を見直す程度に留めた。

募集分野	
ICT・エレクトロニクス・ロボティクス	健康・医療・生命科学
バイオテクノロジー	環境・資源・エネルギー
マテリアル・デバイス・プロセス	サービスサイエンス

(2)「理想の追求」募集要項

今年度の「理想の追求」プログラムの研究課題は「食に関する研究」とした。募集課題は前回と同様に以下の5つを提示した。

- ① 飢餓と飽食
- ② 食の安全保障
- ③ 第6次産業化
- ④ 食の文化と健康、美味しさ
- ⑤ 食の安全性と流通

(3)学会、公的研究機関への案内

従来からの学会、新規追加した学会に対し、学会誌・学会ホームページへの募集要項の掲載、学会会員への募集案内メール配信を依頼した。またJSTサイエンスポータル等へ募集案内の掲載を依頼した。依頼した機関数は、前回より7機関多い35機関となった。大学及び公的研究機関の助成担当窓口に対しては、当財団より各々2回、募集案内のメールを配信した。配信先は175機関(対前回+5機関)となった。

「産業基盤の創生」募集分野の細目

募集分野の細目表

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

1. IoT
 2. ビッグデータ
 3. AI
 4. デジタルメディア
 5. ハードウェア・アーキテクチャ
 6. ソフトウェア
 7. HPCと計算科学
 8. サイバーセキュリティ
 9. ビジョン・言語・音声処理
 10. ネットワーク
 11. 情報学基礎
 12. 知能ロボティクス
 13. その他ITに関する技術。
- また、エレクトロニクスとして以下も含めます。
14. 集積システム
 15. 光システム
 16. ストレージ
 17. ディスプレイ
 18. スマート機器・ウェアラブル
 19. センサシステム

健康・医療・生命科学

1. 生体医工技術
2. 生体医工材料
3. 医療機器・技術
4. 再生医療
5. 生体計測・解析
6. 健康・医療情報・ゲノム情報
7. 生命科学基盤技術
(理論、解析技術、相互作用・構造予測等)
8. 食品機能・安全
9. ナノメディシン

マテリアル・デバイス・プロセス

1. 新しい物質・材料・機能の創成
2. アドバンストマニュファクチャリング
3. 先端材料・デバイスの計測・解析手法
4. 応用デバイス・システム
(ICT、ナノテク、環境、エネルギー、インフラ)

バイオテクノロジー

1. ゲノム編集
2. ゲノム解析
3. 遺伝子組み換え
4. 細胞融合
5. タンパク工学(解析・合成・修飾)
6. バイオインフォマティクス
7. ナノバイオテクノロジー
8. バイオエネルギー
9. バイオケミカルズ
10. バイオリアクター
11. バイオレメディエーション

環境・資源・エネルギー

1. エネルギー生産
2. エネルギー消費
3. エネルギー流通・変換・貯蔵・輸送
4. 資源
5. リユース・リサイクル
6. 水
7. 地球温暖化
8. 環境保全
9. 環境解析・予測
10. 環境創成
11. リスクマネジメント
12. リモートセンシング

サービスサイエンス

1. 経営・政策
2. 知識マネジメント
3. 製品サービスシステム(PSS)
4. 社会設計・シミュレーション
5. サービスマネジメント
6. サービスオペレーション
7. サービスマーケティング
8. サービスデザイン
9. サービス工学
10. サービスロボット
11. サービス理論

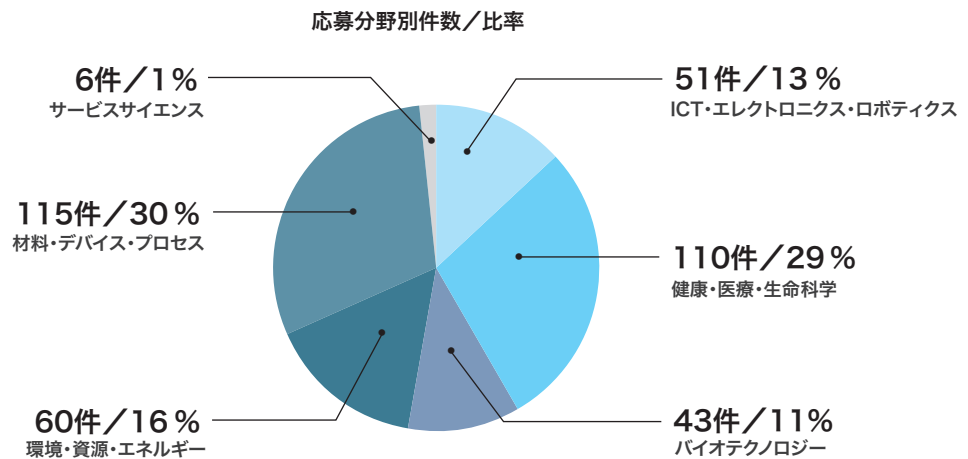
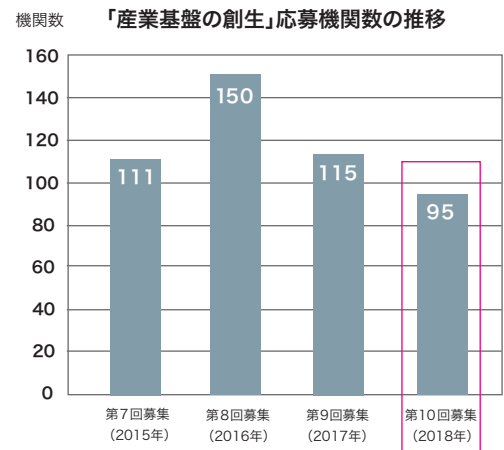
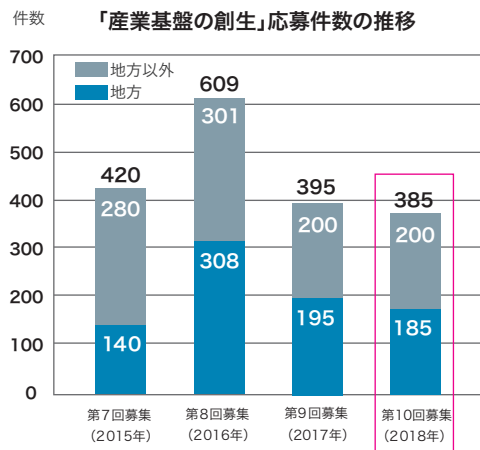
「産業基盤の創生」募集結果

(1) 募集の結果

第10回「産業基盤の創生」募集の結果は以下の通りであった。

- 応募総数：385件（第9回 395件）その内、地方大学・高専の応募：185件（48%）
- 応募機関数：95機関（第9回 114機関）
- 申請者の平均年齢：46.9歳（第9回 47.2歳）

(2) 第7回から第10回応募の推移



「理想の追求」募集結果

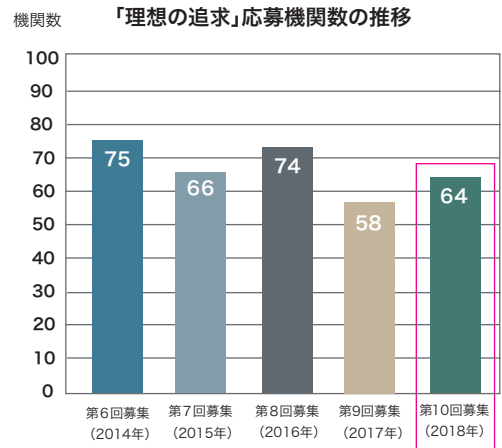
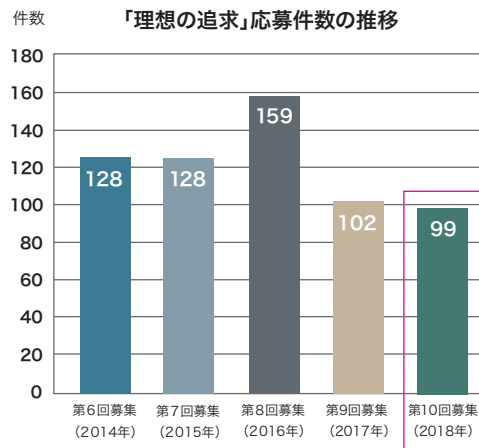
(1) 募集の結果

第10回「理想の追求」募集の結果は以下の通りであった。

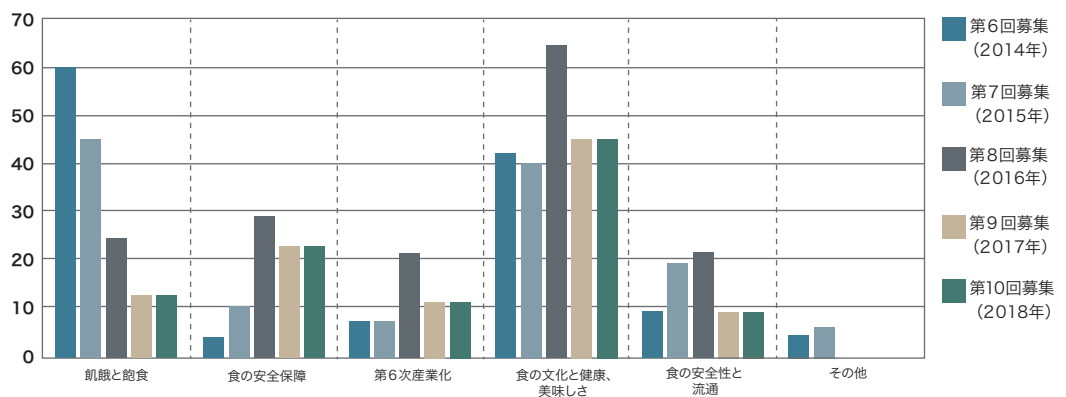
- 応募総数：99件（第9回102件）
- 応募機関数：50機関（第9回58機関）
- 申請者の平均年齢：49.1歳（第9回48.8歳）

(2) 第6回から第10回応募の推移

選考結果



「理想の追求」食の課題別の応募状況



選考結果

(1)選考結果

応募締め切り後、書面審査、一次選考会、二次選考会を経て助成候補が決定した。
助成候補については、選考結果報告書を作成し、平成30年12月に理事長に提出した。
最終決定は平成31年3月の理事会の決議による。

「産業基盤の創生」

- 助成候補件数：12件(助成総額2億円)、うち地方および地域活性化件：5件
- 助成候補者平均年齢：40.2歳

「理想の追求」

- 助成候補件数：4件(助成総額9千万円)
- 助成候補者平均年齢：50.0歳

研究助成活動
今年度採択研究助成

第9回研究助成

第9回研究助成の決定

平成30年3月9日の理事会において、選考委員会より提出された第9回研究助成候補が原案通り承認され、研究助成先が決定した。

- 「産業基盤の創生」研究助成プログラム 14件(総額1億8,500万円)
- 「理想の追求」研究助成プログラム 4件(総額9,000万円)

第9回「産業基盤の創生」研究助成

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 足立 典隆	横浜市立大学 教授	DNAを切らない安全な高効率ゲノム編集技術の開発	1,800
2. 内田 健一	物質・材料研究機構 グループリーダー	ハイスループット熱画像計測による外場駆動熱制御材料探索の革新	1,100
3. 大場 雄介	北海道大学 教授	高速AFMと蛍光イメージングを用いた細胞膜動態の高分解計測	1,000
4. 大矢 忍	東京大学 准教授	強磁性金属/半導体ハイブリッド量子スピントロニクスデバイス	1,400
5. 角嶋 邦之	東京工業大学 准教授	酸化物・半導体の機能を利用した大容量蓄電デバイスの研究	1,000
6. 片山 佳樹	九州大学 教授	がんコンパニオン診断を可能にする細胞膜抗原超高感度検出法	1,700
7. 北村 朗	北海道大学 助教	光ファイバー型蛍光相関分光システムの研究開発と生物応用	1,000
8. 竹中 充	東京大学 准教授	ゲルマニウム中赤外光集積回路を用いた革新的分子スキャナの開拓	1,200
9. 帯刀 陽子	東京農工大学 講師	分子性電磁ナノコイルからなるメディカルデバイスの創成	1,100
10. 長崎 幸夫	筑波大学 教授	放射線プロテクション機能を有するナノメディシンの開発	1,200
11. 廣瀬 哲也	神戸大学 准教授	シリコン太陽電池による光環境エネルギー利用システム基盤の創生	1,400
12. 松島 敏則	九州大学 准教授	有機無機ペロブスカイトを用いた革新的半導体デバイスの創製	1,800
13. 持田 智行	神戸大学 教授	金属錯体の液化に基づく光機能性液体材料の創成	1,300
14. 柳澤 琢史	大阪大学 寄附研究部門講師	Deep learningと脳ビッグデータによる想起画像推定	1,500

第9回研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー	食と腸内細菌により形成される腸内環境の理解と健康科学への展開	2,000
2. 西條 雄介	奈良先端科学技術大学院大学 准教授	イネ種子微生物叢を介した種子形質及び微生物共生の制御基盤構築	3,000
3. 妹尾 啓史	東京大学 教授	土を肥やす新たな微生物基盤の解明	1,500
3. 野田口 理孝	名古屋大学 助教	接木技術革新による放棄土壌の再利用プロジェクト	2,500

第9回研究助成金贈呈式

第9回研究助成金贈呈式

平成30年4月20日(金)、東京都千代田区の経団連会館において、「第9回(平成30年)研究助成金贈呈式」が開催された。贈呈式には、助成研究者、助成研究者関係者、評議員、理事、監事、選考委員、招待者、キヤノン関係者等合わせて93名が参加した。

贈呈式では、はじめに御手洗評議員会議長にお祝いの挨拶をいただき、御手洗議長は、「研究者の皆様には、持続可能な地球社会実現のための人類共通の課題、日本の国際競争力を高め、国民の安全・安心を担保していくという課題を解決するため、大きなイノベーションにチャレンジしていただきたいと願っています。本日を一つの出発点として、これからも夢のあるアイデアに挑戦していくことを期待してやみません。」と研究者を激励した。

続いて吉川理事長は、「科学技術の将来の発展にとっては“まだ見えない研究課題”が重要で、それは若い研究者の直観の中にあります。皆さんは、自分の好奇心を信じ、未来の科学技術に向かって勇気をもって研究に取り組んでください。」と励ましの言葉を述べられた。

その後、「理想の追求」大垣選考委員長および「産業基盤の創生」長田選考委員長から選考講評と助成研究者への期待の言葉が述べられた。

贈呈証の授与では、18名の助成研究者全員に御手洗議長から贈呈証が直接手渡され、続いて助成研究者を代表して、奈良先端科学技術大学院大学の西條准教授と横浜市立大学の足立教授から研究への抱負が述べられた。

贈呈証授与後、第3回助成研究者でもある東北大学の落合教授による講演「深海魚類資源の有効利用に向けて」があり、深海魚の魅力と今後の有効利用の展望が紹介された。

最後に評議員会議長、理事長、両選考委員長と今回の助成研究者全員の集合記念撮影をもって閉式した。



研究助成活動

今年度終了研究助成

「産業基盤の創生」研究終了

第7回「産業基盤の創生」研究終了について

平成28年4月にスタートした第6回「産業基盤の創生」助成研究は平成30年3月に2年間の研究期間を終了した。また第6回「産業基盤の創生」助成研究のうち、研究延長していた3件が研究期間を終了した。これら16件の研究テーマについて報告書が提出され、それらを冊子にまとめると共に、当財団ホームページに掲載した。

第7回「産業基盤の創生」研究成果報告会の開催

平成30年8月9日(木)、CGMIにおいて、第7回「産業基盤の創生」研究成果報告、および懇親会を開催した。当日のプログラムを次ページに示す。

報告会には、助成研究者及び関係者、理事長、選考委員、キヤノン関係者等合わせて73名が参加し、研究が終了した16件中14件の成果報告を行なった。選考委員をはじめ、多くの出席者から質問・意見が出され、活発な議論が行なわれた。当日報告ができなかった2件は、後日選考委員を集め報告会を実施した。

第7回「産業基盤の創生」研究成果報告会 プログラム

日時:平成30年8月9日(木)10:30～
場所:キヤノン グローバル マネジメント インスティテュート (CGMI)

【 理事長開会あいさつ 】 吉川 弘之 / キヤノン財団 理事長

セッション1 ナノテクノロジーを牽引する機能材料 座長 / 長田 義仁(理化学研究所)

1. アミノ酸誘導体による希土類錯体の合成:同時多色発光材料の設計 岩倉いづみ(神奈川大学)
2. 蛋白質の高効率生産法の開発 阿部 洋(名古屋大学)
3. メタマテリアルと量子ドットを用いた極小単一光子放出器の創出 向井 剛輝(横浜国立大学)
4. 究極の電荷輸送機能を指向した革新的有機半導体パラダイムの創出 安田 琢磨(九州大学)
5. 金属糊を用いた還元ガスを不要とする革新的銅接合材料 塚本 宏樹(代理)(北海道大学)

セッション2 材料・プロセス技術を用いた機能素子 座長 / 藤田 静雄(京都大学)

5. 単分子強誘電素子の開発 西原 禎文(広島大学)
6. 窒素ドーパ酸亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線LEDの高性能化 藤田 恭久(島根大学)
7. 革新的有機プロト・エレクトロニクス材料およびデバイスの創製 森 初果(東京大学)
8. 海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓 富永 依里子(広島大学)

セッション3 ゲノム研究における最新技術 座長 / 片岡 一則(ナノ医療イノベーションセンター)

9. DNAエピゲノム解析に向けた1分子表面増強ラマン分光技術 菅野 公二(神戸大学)
10. ポリヒスチジンを利用した次世代育種基盤技術の創生 岩崎 崇(鳥取大学)
11. 無細胞DNA組換え系を用いた人工蛋白質創製技術の確立 美川 務(理化学研究所)

セッション4 革新的システムに向けた基盤研究 座長 / 伊東 一良(大阪大学)

12. 量子揺らぎ制御に基づく高性能光アナログ-デジタル変換の研究 小西 毅(大阪大学)
13. 樹木種子の高発芽率化技術に関する研究 松田 修(九州大学)

【 選考委員長講評 】 長田 義仁 選考委員長

(産業技術総合研究所/佐藤主税グループ長、北海道大学/山本拓矢准教授の報告は後日実施)



「理想の追求」研究終了

第5回、第6回「理想の追求」研究終了について

平成27年4月にスタートした第6回「理想の追求」助成研究3件のうち2件、及び第5回「理想の追求」助成研究のうち期間延長していた1件は、平成30年3月にそれぞれの研究期間を終了した。第6回の残り1件は1年の期間延長となった。また、平成29年7月より開始したワークショップ活動「食と腸内細菌叢の研究」も平成30年3月に予定どおり終了した。

研究成果報告書3件、およびワークショップ活動報告書1件は、報告書にまとめるとともに当財団ホームページに掲載した。また、中間報告3件、研究経過報告9件については報告書にまとめた。

第6回「理想の追求」シンポジウムの開催

平成30年7月31日(火)、東京目黒区のキャノン グローバル マネジメント インスティテュート(CGMI)において、第6回「理想の追求」シンポジウムおよび懇親会を開催した。シンポジウムには、第5回～第9回助成研究者、その共同研究者、理事長及び理事、選考委員、キャノン関係者等合わせて62名が参加した。

研究が終了した3件の成果報告、ワークショップ活動報告の他、3件の研究中間報告が行なわれ、それ以外の研究進捗についてはポスターセッション方式で発表した。シンポジウム全体を通じて、選考委員はじめ多くの出席者からの質問・意見と共に、活発な議論が交わされた。

第6回「理想の追求」シンポジウム プログラム

日時:平成30年7月31日(金)13:00～
場所:キヤノン グローバル マネジメント インスティテュート(CGMI)

第I部 研究成果報告(第5回、6回)

1. 北の海に未知なる生命と生物多様性を探る 荒木 仁志(北海道大学)
2. 伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸・脳相関に関する研究 辻 典子(産業技術総合研究所)
3. 伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立 都築 毅(東北大学)

第II部 研究中間報告(第8回)

4. 日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析 植松 智(千葉大学)
5. 食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究 加藤 清明(帯広畜産大学)
6. 先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止 小早川 高(関西医科大学)

【理事長挨拶】吉川 弘之 / キヤノン財団 理事長

第III部 ワークショップ活動報告

7. 食と腸内細菌叢の研究 國澤 純(医薬基盤・健康・栄養研究所)

第IV部 研究経過報告(第6回、7回、9回)

8. 揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築 木下 奈都子(筑波大学)
9. 食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価 安井 秀(代理)(九州大学)
10. 食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析 栗原 新(石川県立大学)
11. 牛肉生産システムの大構造改革:科学と国土をフル活用した大革新 後藤 貴文(鹿児島大学)
12. フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究 辻 寛之(横浜市立大学)
13. 食と腸内細菌により形成される腸内環境の理解と健康科学への展開 國澤 純(医薬基盤・健康・栄養研究所)
14. イネ種子微生物叢を介した種子形質及び微生物共生の制御基盤構築 西條 雄介(奈良先端科学技術大学院大学)
15. 土を肥やす新たな微生物基盤の解明 妹尾 啓史(東京大学)
16. 接木技術革新による放棄土壌の再活用プロジェクト 野田口 理孝(名古屋大学)

【選考委員長講評】大垣 眞一郎 選考委員長



知的財産講習会・アウトリーチ(外部向け講演会)

知的財産講習会

平成29年度より、助成先研究者への知的財産の基礎に関する講習会を開始し、平成30年は第2回目となる。

前回よりも具体的な事例紹介や調査実践の教育があったこともあり、理解度も高く、また全出席者から高い満足度が得られた。

実施日	平成30年3月28日(水)午後
受講者	11名(助成先研究者、共同研究者)
講師	キヤノン(株)知財本部、キヤノン技術情報サービス(株)
内容	知的財産の基本、発明の認識と特徴把握、特許調査入門

アウトリーチ(外部向け講演会)

平成30年2月6日(火)、東京・千代田区の富士ソフトアキバプラザ内アキバホールにて一般社団法人和食文化国民会議(和食会議)との共催で、「和食と健康」～食と腸内細菌研究の新展開～をテーマとしたシンポジウムを開催した。

「理想の追求」で助成研究している「食」に関する研究の中から、「食と腸内細菌に関する研究」を3件とりあげ、和食会議が推進している「和食文化の継承」を科学的にバックアップするものとして講演会を実施した。当初の参加予定人数を大きく上回る約200名が参加し、臨時席を出すほどの盛況となった。



広報活動

(1) ホームページ刷新

キヤノン財団の活動をより詳しく情報発信するために、平成28年末にホームページのリニューアルを行い、今期コンテンツを充実させた。新たに発信した情報は以下となる。また、海外へのキヤノン財団事業活動の周知を目的として英語版ホームページを制作した。

① キヤノン財団事業報告書

第10期のキヤノン財団の事業活動として、研究助成プログラムの概要、選考委員、研究助成活動(募集、応募状況、選考過程等)、贈呈式、「理想の追求」シンポジウム、「産業基盤の創生」研究成果報告会、会計報告等について詳細に報告した。

② 助成先だより

助成研究の概要、研究のその後の発展状況、研究者になろうと思ったきっかけ、助成期間を通じた感想、今後の夢などについて、助成先研究者へのインタビューをもとに制作した。今年は4名へのインタビューを実施し、ホームページに掲載した。これまでに合計8名が掲載されている。

- 田村 岳史 先生(国立極地研究所) 「理想の追求」第4回助成
- 山口 匡 先生(千葉大学) 「産業基盤の創生」第6回助成
- 齊藤 博英 先生(京都大学) 「産業基盤の創生」第6回助成
- 王 碩玉 先生(高知工科大学) 「産業基盤の創生」第4回助成



③ 英語版ホームページ

平成30年6月に英語版ホームページを公開した。

(2) 地方メディアの活用

助成先研究が、地方新聞等の地方メディアに取り上げてもらう活動を、昨年からは開始している。今年の掲載実績を以下に示す。

- | | | | |
|----------|-------------------|--------|-----------|
| ● 名古屋大学 | 川部先生(産業基盤の創生 第5回) | 中日新聞 | 2018/5/26 |
| ● 筑波大学 | 守友先生(産業基盤の創生 第3回) | 日刊工業新聞 | 2018/6/6 |
| ● 名古屋大学 | 芦苺先生(理想の追求 第7回) | 日刊工業新聞 | 2018/7/26 |
| ● 広島大学 | 西原先生(産業基盤の創生 第5回) | 日刊工業新聞 | 2018/8/10 |
| ● 熊本大学 | 檜垣先生(産業基盤の創生 第8回) | 熊本日日新聞 | 2018/8/17 |
| ● 広島市立大学 | 式田先生(産業基盤の創生 第5回) | 中国新聞 | 2018/9/23 |

リュニオン

(1) リュニオン趣旨

今までに採択された研究者の数は、共同研究者を含めると340人を超える規模になっている。この研究者の集まりは、学術領域の枠を超えた多くの分野に渡っており、この中から将来的に異分野融合研究が生まれることが期待される。「リュニオン」はそうした目的をもって活動をしている。

(2) 開催

第二回目となる今回は、12月7日に大手町ファーストスクエアカンファレンスで開催した。理事長、選考委員、助成先研究者、その他関係者を含め、総勢78名が参加した。

1つ目のプログラムとして、選考委員である所眞理雄先生から「研究するとは何か」と題した講演が行われた。「基礎研究からビジネスへの道筋」や「人がやらなかったオンリーワンの研究の重要性」などが熱く語られ、その後の質疑応答では、多岐にわたる質問や意見が交わされ、活発な議論が繰り広げられた。

つづいて2つ目のプログラムとして、異分野の研究交流のきっかけづくりとして、ポスターセッションを実施し、助成終了後および助成中の研究者合わせて16名によるプレゼンテーションが行われた。異分野研究者同士が熱く議論する場面が、会場の至るところで見られ、今後分野を超えた融合研究が始まることが期待される。



「研究助成プログラムの刷新」と 「ビジョン&ミッションの再定義」

研究助成プログラムの刷新

財団設立より10年たち、「産業基盤の創生」「理想の追求」という2つのプログラムでの研究助成も10回目を迎えた。この10年の間には、国の科学技術基本計画や産業界の取り組みなど、科学技術研究の世界も大きく変わってきている。そうした中、キヤノン財団が特徴ある活動を行い、より一層「科学技術の発展をととして広く国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献する」ためには、10年という区切りの良いこの時期に新たな変革が必要と考え、研究助成プログラムの見直しを実施した。ここで、とりわけ注目したことは、以下の2点である。

1

現代の日本の科学技術者のおかれた環境は、専門性が非常に高く、特定の閉じた領域でしごを削ることに精いっぱい、誰もトライしたことのない新しい研究分野の開拓に挑み、そこにじっくり取り組むことが困難であること。

2

研究者自身、比較的短期間で具体的な成果に結びつけることに多くの興味が向かい、研究の行きつく先としてどのような豊かな未来や社会の繁栄につながるのかという展望が示されることが少ないこと。

こうした現状に少しでも風穴を空け、「真に新しい価値を生む」ことにつながる研究助成をめざし、新しく2つのプログラムを開始することとした。その内容はすでに財団ホームページでも公開しているため、ここではプログラム名称とその趣旨を紹介する。



① 善き未来を開く科学技術

未来社会の新しい価値を実現する、あるいは科学技術が発展する過程で生み出してきた課題を解決するための革新的な研究への助成。未来の社会をより一層明るくするため、これからの時代に必要な、善く考え・創る科学技術研究を求める。



② 新産業を生む科学技術

世の中でまだ認知されていない、20年30年後に産業となることが期待される、未開拓の科学技術研究への助成。真に新しい価値につながる研究として、独創的な課題設定をし、新しい科学技術の開拓に挑戦をすることを求める。

ビジョン/ミッションの再定義

今回、プログラム刷新を進めるにあたり、日本の科学技術者のおかれた環境や、研究者の発信力に関わることに大いに注目した。そして、それらを良くしていくことは、財団設立以来の特長を活かし、長く科学技術の発展に貢献することを目指す財団の姿勢を示すにふさわしい活動根拠といえる。そこで、研究助成プログラムを刷新するこの機会に、財団のビジョン/ミッションを以下のとおり再定義した。

ビジョン

科学技術の将来と未来社会の洞察をもとにした新たな価値創造への挑戦が尊重される社会を実現することにより、人類の幸福と社会の繁栄に貢献します

ミッション

未来社会のありたい姿を描き、その実現のために今までにない独創的な研究課題に挑戦する科学技術者を支援していきます

過去からの研究助成実績

第1回(平成22年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50首順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 安坂 幸師	名古屋大学/助教	中空多層フラーレンの光・電子デバイスの開発	1,900
2. 市浦 英明	高知大学/准教授	界面重合反応を活用した新しいナノカプセル・ナノファイバー・ナノ多孔合成法とその特徴を有するシート状素材の開発	1,000
3. 岡田 健一	東京工業大学/准教授	CMOS技術を用いたミリ波帯超高速スケーラブル無線回路技術の研究	1,200
4. 金子 真	大阪大学/教授	マイクロ液滴によるダイナミックアクティブセンシング	1,500
5. 河野 行雄	理化学研究所/専任研究員	固体ワンチップによる広帯域テラヘルツ分光器の開発	1,700
6. 栗原 正人	山形大学/准教授	100°Cの壁を越える低温焼結性銀超微粒子の高効率・簡便製造と基材適合性	1,200
7. 黒田 俊一	名古屋大学/教授	ナノメディシンの生体内ピンポイント送達を可能にするヒト由来ウイルス外皮タンパク質コーティング技術の開発	2,000
8. 小池 英樹	電気通信大学/教授	デジタルスポーツ創生のための基礎研究	1,500
9. 佐々木 健夫	東京理科大学/准教授	光誘起電界による分子運動の変調に基づく動的ホログラムの形成	1,000
10. 祖山 均	東北大学/教授	流動キャピテーションによるラジカルの制御	2,000
11. 中村 龍平	東京大学/助教	自然共生型の高効率光エネルギー変換システムの構築	2,000
12. 松尾 吉晃	兵庫県立大学/准教授	水素貯蔵用シルセスキオキサン架橋型グラフェン炭素の創生	1,000
13. 森田 靖	大阪大学/准教授	有機分子を活物質に用いた革新的高性能二次電池の開発	2,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50首順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 岩淵 聡文	東京海洋大学/教授	水中文化遺産研究への海洋工学の応用	2,000
2. 北野 宏明	特定非営利活動法人 システム・バイオロジー研究機構/会長	サンゴ-共生藻におけるロバストネス・トレードオフと気候変動	5,000
3. 佐藤 克文	東京大学/准教授	動物目線による海洋環境モニタリング	3,000

第2回(平成23年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 安 東 秀	東北大学/助教	走査ナノダイヤモンド磁気検出器プローブによる単スピン検出	1,500
2. 今里 浩子	一般財団法人ファジシステム研究所 /主任研究員	誘電泳動現象を用いた白血病細胞の分離・同定	1,700
3. 小椋 俊彦	産業技術総合研究所/主任研究員	高分解能三次元リアルタイム軟X線顕微鏡の開発	1,700
4. 韓 立 彪	産業技術総合研究所/グループ長	革新的有機ヘテロ原子機能材料の創製	1,900
5. 佐治木 弘尚	岐阜薬科大学/教授	機械エネルギーで水から水素を製造する次世代エネルギーシステム	2,000
6. 庄 司 暁	大阪大学/助教	2光子加工法を駆使したナノ領域でのポリマーの力学特性の解明	1,100
7. 田邊 孝純	慶應義塾大学/専任講師	微小光共振器による位相制御された光周波数コム光源の開発	1,500
8. 東口 武史	宇都宮大学/准教授	次々世代半導体リソグラフィー用波長6.7nm極端紫外光源の開発	1,900
9. 細谷 浩史	広島大学/教授	ミドリゾウリムシ共生藻が産生する糖類の利用に関する研究	2,000
10. 村越 敬	北海道大学/教授	電子移動機能アトムサイトの室温構造制御	1,500
11. 森川 浩安	大阪市立大学/講師	超音波速度の温度依存性を利用した内臓脂肪診断装置の開発	1,700
12. 吉原 利忠	群馬大学/助教	低酸素病態イメージングのための高機能りん光プローブ分子の開発	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 桑田 晃	水産総合研究センター/主任研究員	未知の藻類:バルマ藻が解き明かす海洋を支える珪藻の進化	2,800
2. 杉松 治美	東京大学/特任研究員	アジア域に棲息する小型歯クジラ類のリアルタイム音響観測ネットワークの構築	2,800
3. 眞部 広紀	佐世保工業高等専門学校/准教授	陸海域カルスト水文系の追跡によるロボット探査とマッピング	600
4. 御手洗 哲司	沖縄科学技術研究基盤整備機構 /若手代表研究者	深海底熱水噴出域の幼生輸送と生物群集変動	3,800

第3回(平成24年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 浅沼 浩之	名古屋大学/教授	医療応用を目指した人工核酸の創成	2,000
2. 味岡 逸樹	東京医科歯科大学/准教授	ニューラルネットワークモデル検証のための神経細胞三次元培養	1,600
3. 内山 潔	鶴岡工業高等専門学校/教授	プロトン伝導性酸化物薄膜の高性能化とその燃料電池応用	1,100
4. 奥野 貴士	山形大学/准教授	細胞膜タンパク質機能の高感度イメージング解析技術の開発	1,400
5. 尾崎 信彦	和歌山大学/准教授	多色量子ドットによる近赤外広帯域光源開発と医療OCTへの応用	1,200
6. 角田 直人	首都大学東京/准教授	近赤外分光法に基づく顕微領域の温度・水分同時イメージング法の開発	1,500
7. 岸本 昭	岡山大学/教授	高信頼性耐火物への制御した気孔導入が可能な超塑性発泡法の開発	1,600
8. 戸川 望	早稲田大学/教授	グリーンITを実現する超低電力化フラットLSI自動設計技術の創生	1,600
9. 則包 恭央	産業技術総合研究所 /主任研究員	光で溶ける有機材料—再生可能な感光性有機材料の基盤技術の創出	2,000
10. 松村 和明	北陸先端科学技術大学院大学 /准教授	両性電解質高分子を利用した高次細胞構造体の凍結保存技術の開発	1,300
11. 守友 浩	筑波大学/教授	ネットワークポリマーを用いた『カラー電池』の開発	1,300
12. 山本 希美子	東京大学/講師	先進分子イメージングによる血管の血流感知機構の解明	2,000
13. 渡部 平司	大阪大学/教授	界面制御に基づく超低消費電力半導体ナノエレクトロニクスの創成	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 落合 芳博	東海大学/教授	深海魚類資源の網羅的開拓	1,000
2. 桑江 朝比呂	港湾空港技術研究所 /チームリーダー	都市型ブルーカーボン:新たな沿岸海域炭素循環像の構築	1,000
3. 高井 研	海洋研究開発機構 /プログラムディレクター	「沖繩の深海に超巨大海底熱水鉱床を探索」	5,000
4. 西岡 純	北海道大学/准教授	凍る海の豊かな生態系を生み出す機構の解明	3,000

第4回(平成25年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 有澤 光弘	北海道大学/准教授	機能性分子合成用希少元素削減・代替型ナノパーティクル触媒の開発	1,200
2. 伊藤 公平	慶應義塾大学/教授	ダイヤモンドによる単一プロトン核スピン磁気共鳴センシング	1,800
3. 伊藤 嘉浩	理化学研究所/主任研究員	化学拡張進化分子工学による蛍光センサー分子の構築原理の実証	1,500
4. 王 碩玉	高知工科大学/教授	自立高齢者生活支援のためのインテリジェント・ロボットの開発	1,600
5. 大道 英二	神戸大学/准教授	テラヘルツ磁気共鳴力顕微鏡を用いた生体分子の高分解能スペクトロスコピー	1,500
6. 木村 崇	九州大学/教授	スピン吸収効果を用いた極微細スピンクーリングデバイスの開発	1,000
7. 萩原 伸也	名古屋大学/特任准教授	翻訳段階で遺伝情報を変換する新規遺伝子治療法の創生	1,000
8. 林 隆介	産業技術総合研究所/研究員	脳神経情報に基づく視覚体験の可視化技術の開発	1,300
9. 平山 朋子	同志社大学/准教授	超低摩擦摺動メカニズム解明のための新規固液界面分析装置の開発	1,500
10. 福田 弘和	大阪府立大学/准教授	植物工場における超高速環境パラメータ最適化手法の開発	1,700
11. 松田 一成	京都大学/教授	革新的光電変換機能をもつオールナノカーボン太陽電池の開発	1,700
12. 宮元 展義	福岡工業大学/准教授	層状ペロブスカイトに基づく機能性無機ナノシート液晶の開発	1,800
13. 村田 昌之	東京大学/教授	細胞質交換法を用いた「病態モデル細胞」創成と解析技術の開発	1,800

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 井上 麻夕里	東京大学/助教	環境を記録する造礁サンゴの骨格成長メカニズムの解明	4,000
2. 岩崎 渉	東京大学/講師	太古、生命はどんな光を見たか	3,000
3. 田村 岳史	国立極地研究所/助教	気候変動の鍵を握る南極の海	3,000

第5回(平成26年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 大森 雅登	豊田工業大学/嘱託研究員	半導体ナノ細線フォトランジスタを用いた単一光子検出器の開発	1,600
2. 加藤 雄一郎	東京大学/准教授	カーボンナノチューブ単一光子源	1,400
3. 式田 光宏	広島市立大学/教授	肺内部でのその場計測を可能にするカテーテルセンサの開発	1,100
4. 白井 裕子	早稲田大学/准教授	林地内走破型伐倒マニピュレータシステムの開発	1,100
5. 竹岡 敬和	名古屋大学/准教授	白い粒子と黒い粒子から得られる様々な色の顔料の調製	1,800
6. 生津 資大	兵庫県立大学/准教授	近未来型低侵襲癌治療のための瞬間発熱ナノ粒子の実現	2,000
7. 新倉 謙一	北海道大学/准教授	高活性ワクチンアジュバントのためのハイブリッドナノ粒子開発	1,810
8. 西村 智	自治医科大学/教授	ゆらぐ生命現象の可視化デバイスの開発	2,000
9. 根岸 雄一	東京理科大学/准教授	低コスト燃料電池を実現する高活性白金触媒の精密合成法の開発	1,400
10. 平川 一彦	東京大学/教授	単一分子をテラヘルツ電磁波で見る技術の開拓	1,700
11. 松浦 和則	鳥取大学/教授	環境応答性人工ウイルスキャプシドの創製	1,700
12. 安井 武史	徳島大学/教授	非線形ギャップレス光コム分光法の開発と呼気診断への応用	1,140
13. 山内 悠輔	物質・材料研究機構/主任研究員	電解析法による新規ナノポーラス白金電極の開発	1,850

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 荒木 仁志	北海道大学/教授	北の海に未知なる生命と生物多様性を探る	2,000
2. 西田 洋巳	富山県立大学/教授	海洋を漂うプラスミドDNAが生物進化に与える影響	2,000
3. 升本 順夫	東京大学/教授	海洋4次元地図帳:モデリングと可視化のニューフロンティア	3,000
4. 吉田 天士	京都大学/准教授	ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か?	3,000

第6回(平成27年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 阿部 洋	名古屋大学/教授	蛋白質の高効率生産法の開発	2,000
2. 有田 稔彦	東北大学/助教	汎用樹脂とシリカ微粒子からなる高プロトン伝導セパレータの創製	1,300
3. 飯田 琢也	大阪府立大学/准教授	ナノ/マイクロ構造の超高速光集積・検出システムの開発	1,600
4. 岩倉 いずみ	神奈川大学/准教授	アミノ酸誘導体による希土類錯体の合成:同時多色発光材料の設計	2,000
5. 岩瀬 英治	早稲田大学/准教授	自己修復型伸縮配線を用いたフレキシブルデバイスシート	1,000
6. 上原 宏樹	群馬大学/准教授	延伸技術と燃糸技術の融合による超高強度繊維の創製	1,800
7. 齊藤 博英	京都大学/准教授	RNAナノテクノロジーを活用した細胞運命の人為的制御法の開発	1,000
8. 櫻井 敏彦	鳥取大学/准教授	がん治療を目的としたinchworm型人工核酸の創成と応用	1,600
9. 富永 依里子	広島大学/助教	海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓	1,900
10. 松元 亮	東京医科歯科大学/准教授	糖応答性高分子ゲルによるインテリジェント型人工臓腑の開発	2,000
11. 山口 匡	千葉大学/教授	非観血無侵襲の超迅速センチネルリンパ節生検システムの開発	1,900
12. 山本 倫久	東京大学/講師	グラフェンバレートロニクスデバイスの創製	1,900

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 木下 奈都子	筑波大学/助教	揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築	1,500
2. 辻 典子	産業技術総合研究所/チーム長	伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸-脳相関に関する研究	3,000
3. 都築 毅	東北大学/准教授	伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立	3,000

第7回(平成28年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 岩崎 崇	鳥取大学 農学部 /助教	ポリヒスチジンを利用した次世代育種基盤技術の創生	1,500
2. 小西 毅	大阪大学 大学院工学研究科 /准教授	量子揺らぎ制御に基づく高性能光アナログ-デジタル変換の研究	1,500
3. 佐藤 主税	産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 /研究グループ長	水中のサンプルを多色観察できる走査電子顕微鏡システムの開発	1,100
4. 菅野 公二	神戸大学 大学院工学研究科 /准教授	DNAエピゲノム解析に向けた1分子表面増強ラマン分光技術	1,500
5. 西原 禎文	広島大学 大学院理学研究科 /准教授	単分子強誘電素子の開発	900
6. 藤田 恭久	島根大学 総合理工学研究科 /教授	窒素ドープ酸化亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線LEDの高性能化	1,400
7. 松田 修	九州大学 大学院理学研究院 /助教	樹木種子の高発芽率化技術に関する研究	1,100
8. 美川 務	理化学研究所 生命システム研究センター /専任研究員	無細胞DNA組換え系を用いた人工蛋白質創製技術の確立	1,500
9. 向井 剛輝	横浜国立大学 大学院工学研究院 /教授	メタマテリアルと量子ドットを用いた極小単一光子放出器の創出	1,000
10. 森 初果	東京大学 物性研究所 /教授	革新的有機プロト・エレクトロニクス材料およびデバイスの創製	1,400
11. 安田 琢磨	九州大学 稲盛フロンティア研究センター /教授	究極の電荷輸送機能を指向した革新的有機半導体パラダイムの創出	1,400
12. 山本 拓矢	北海道大学 大学院工学研究院 /准教授	環状高分子を利用した新奇刺激応答型DDS材料の開発	800
13. 米澤 徹	北海道大学 大学院工学研究院 /教授	金属糊を用いた還元ガスを不要とする革新的銅接合材料	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 芦苜 基行	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター /教授	食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価	2,500
2. 栗原 新	石川県立大学 生物資源環境学部 /寄附講座 准教授	食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析	1,700
3. 後藤 貴文	九州大学 大学院農学研究院 /准教授	牛肉生産システムの大構造改革:科学と国土をフル活用した大革新	2,300
4. 辻 寛之	横浜市立大学 木原生物学研究所 /講師	フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究	1,700

第8回(平成29年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 鐘巻 将人	国立遺伝学研究所 教授	幹細胞における迅速なタンパク質発現制御技術の開発	1,500
2. 川井 清彦	大阪大学 准教授	RNA1分子検出による癌の遺伝子点突然変異診断 (注)	300 (1,100)
3. 黒岩 敬太	崇城大学 教授	トマト由来ステロイドアルカロイド配糖体によるブロープ材料開発	1,500
4. 小暮 健太郎	徳島大学 教授	微弱電流薬物送達システムによる体内臓器への核酸医薬新規送達法	1,000
5. 高橋 淳子	産業技術総合研究所 主任研究員	次世代がん治療を実現する「放射線力学療法」の基盤研究	1,500
6. 竹井 敏	富山県立大学 准教授	ガス透過性金型を用いる医薬品材料のナノインプリント加工技術	1,500
7. 秩父 重英	東北大学 教授	ヘリコン波プラズマエピタキシー開発とポラリトンレーザ構造形成	1,500
8. 津田 明彦	神戸大学 准教授	音響指向エレクトロクロミックナノファイバーの創製	1,100
9. 桧垣 匠	東京大学 特任准教授	高CO2固定植物の作出に向けた気孔エンジニアリング技術の創出	1,300
10. 船津 高志	東京大学 教授	マイクロ液滴を利用した有用な機能性生体分子の探索・創製	1,500
11. 馬渡 和真	東京大学 准教授	単一細胞エピゲノム解析のための基盤技術創成	1,500
12. 湯浅 裕美	九州大学 教授	次世代MRAMへ向けた反平行磁化配列層のスピントルク発振実証	1,000

(注) ESとして採択したテーマ。助成金のカッコ内は、追加助成が認められた場合の総額を示す。

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 植松 智	千葉大学 教授	日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析	3,000
2. 加藤 清明	帯広畜産大学 教授	食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究	2,000
3. 小早川 高	関西医科大学 学長特命准教授	先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止	3,000

採択実績推移

採択実績

平成21年5月より2つの研究助成プログラムを設定し、研究助成公募を開始しました。
これまでに9回の研究公募を行い、計146件が採択されました。

採択実績

	「理想の追求」		「産業基盤の創生」	
	応募数	採択数	応募数	採択数
第1回募集	76件	3件	245件	13件
第2回募集	87件	4件	304件	12件
第3回募集	62件	4件	358件	13件
第4回募集	65件	3件	323件	13件
第5回募集	77件	4件	399件	13件
第6回募集	128件	3件	376件	12件
第7回募集	128件	4件	420件	13件
第8回募集	159件	3件	609件	12件
第9回募集	102件	3件	395件	14件

会計報告

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

(単位:円)

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
経常収益計	420,714,663	368,813,595	51,901,068
(2) 経常費用			
① 事業費	300,299,691	270,292,185	30,007,506
② 管理費	97,969,323	90,209,441	7,759,882
経常費用計	398,269,014	360,501,626	37,767,388
当期経常増減額	22,445,649	8,311,969	14,133,680
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	137,538	-	137,538
(2) 経常外費用			
経常外費用計	-	1	△ 1
当期経常外増減額	137,538	△ 1	137,539
当期一般正味財産増減額	22,583,187	8,311,968	14,271,219
一般正味財産期首残高	109,046,878	100,734,910	8,311,968
一般正味財産期末残高	131,630,065	109,046,878	22,583,187
II. 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	100,028	100,028	-
② 一般正味財産への振替額	△ 100,028	△ 100,028	-
指定正味財産期首残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
指定正味財産期末残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
III. 正味財産期末残高	1,131,918,827	1,109,335,640	22,583,187

貸借対照表

貸借対照表

(単位:円)

平成30年12月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I.資産の部			
1.流動資産			
流動資産合計	287,109,924	256,004,629	31,105,295
2.固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(2)その他固定資産			
什器備品	593,710	910,915	△317,205
その他固定資産合計	593,710	910,915	△317,205
固定資産合計	1,000,882,472	1,001,199,677	△317,205
資産合計	1,287,992,396	1,257,204,306	30,788,090
II.負債の部			
1.流動負債			
流動負債合計	156,073,569	147,868,666	8,204,903
負債合計	156,073,569	147,868,666	8,204,903
III.正味財産の部			
1.指定正味財産			
指定正味財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(うち基本財産への充当額)	(1,000,288,762)	(1,000,288,762)	-
2.一般正味財産			
一般正味財産	131,630,065	109,046,878	22,583,187
正味財産合計	1,131,918,827	1,109,335,640	22,583,187
負債および正味財産合計	1,287,992,396	1,257,204,306	30,788,090

キヤノン財団 概要

設立趣意

設立趣意

キヤノンは、「国産の高級カメラをつくろう」という大きな志を抱いた若者により1937年に企業としての歩みを始めました。その進取の気性の精神は今日まで受け継がれ、技術で人類の幸福に貢献し続ける企業を目指して発展してまいりました。

キヤノンはこれまでも、人々の生活を豊かにする製品やサービスを提供するとともに、さまざまな分野で社会・文化支援活動を展開してまいりました。この度、これらの活動に加えて、より一層社会に対し恩返しをしたいという強い気持ちから、創業70周年を記念し、キヤノン財団を設立することといたしました。

現在、情報通信を始めとする技術革新により、急速な経済のグローバル化、情報のネットワーク化が実現され、我々の生活はこれまでになく豊かになりました。しかし、その一方で、環境問題、資源問題など、国・地域の境界を越えた人類共通の深刻な課題に直面しています。

これら諸問題の解決には、国家レベルの対応のみならず、人類が幅広く英知を結集し、多面的な取り組みを行い、積極的にその役割を担うことが重要です。とりわけ、科学技術には、人類が直面する諸問題の解決に大きく寄与することが求められています。

キヤノン財団は、時代の要請に従い、科学技術をはじめとするさまざまな学術および文化の研究、事業、教育を行う団体・個人に対し幅広い支援を行い、人類社会の持続的な繁栄と人類の幸福に貢献していきたいと念じております。

2008年12月1日



設立者
キヤノン株式会社 代表取締役会長

御子洗富士夫

ビジョン

キヤノン財団は科学技術の振興と理想社会の追求によって、
人類の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ミッション

科学的な知識や新しい技術は、20世紀から21世紀を通して、人類に幸福をもたらす社会の繁栄に大いに貢献してきました。これからの世界も、紆余曲折はありながらも、科学技術の発展と共に進化していきます。キヤノン(株)はお陰様で、創業79周年を迎え、科学技術の発展とともに順調に業績を伸ばしてまいりました。創業70周年を記念して、少しでも社会に恩返しする目的で、科学技術分野の研究を支援することを目的に、この財団を設立いたしました。本来、研究開発の助成は国の大きな任務ですが、キヤノン財団では、国の支援から漏れた、しかしとても優れた研究者を発掘しその研究を支援していきます。

プログラムは二つあります。第一は「産業基盤の創生」で自然科学分野の長期的研究から「イノベーション」を惹起し、新産業のネタになるような研究を支援します。あまり研究実績がなくともその発想が極めて優れており、その成果が社会に大きなインパクトを与えるようなテーマを優先的に取り上げます。比較的研究歴の短い研究者でも、高いゴールを掲げて挑戦的な研究をしたい方は歓迎です。また中央集権的な日本の社会構造を打ち破るような、地方を活性化するようなテーマも優先します。分野は特に限定しませんが、21世紀はやはり情報科学・技術とライフ・バイオサイエンスから大きなイノベーションが生まれるでしょう。

第二のプログラムは「理想の追求」です。この現実社会を少しでも人々の描く「理想」に近づけるような「キーワード」をこちらから選定し、その中から新しい発想のテーマを見出し人々に夢を与えるような研究を助成します。最初の5年間は「海」をテーマに助成し、現在は「食」をテーマに研究を支援しています。社会に夢を与え、理想に近づけるための高いゴールを設定し、様々な視点から分野横断的に複数の研究者がチームを組んでアプローチして頂くようお願いしています。この助成の特長は上記の点以外にも、助成件数を絞り一件当たりの研究費をできるだけ大きくとること、厳密な審査を行います。研究のフォローアップを専門の審査員の先生が行ってくれる事などがあります。

2016年12月26日

概要

名称	一般財団法人キヤノン財団
設立	2008年12月1日
基本財産	10億円
所在地	〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2
Tel.	03-3757-6573
Fax	03-3757-0674
URL	http://www.canon-foundation.jp

目的

当財団は、科学技術をはじめとする幅広い学術及び文化の領域における研究、事業、教育等に対して助成・支援を行うことによって、学術および文化の振興発展を図り、もって広く国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献することを目的とします。

沿革

キヤノンは創業70周年を記念し、2008年にキヤノン財団を設立。人類の英知を深め持続的な繁栄を目指す、科学技術を核とした総合的な研究プロジェクトに対して助成を行っています。

1. 研究プログラム「産業基盤の創生」
2. 研究プログラム「理想の追求」

助成対象

国内の大学および大学院(附属機関を含む)、大学共同利用機関、高等専門学校、その他公的研究機関等の何れかに勤務し、当該機関で実質的に研究できる方。助成期間中に日本国内に居住している方が対象になりますが、申請者の国籍は問いません。

評議員・理事・監事 一覧

評議員

(平成30年3月9日現在・50音順)

役職	氏名	現職
評議員会議長	御手洗 富士夫	キヤノン株式会社 代表取締役会長 CEO
評議員	岩沙 弘道	三井不動産株式会社 代表取締役会長
評議員	広瀬 勝貞	大分県 知事
評議員	渡 文明	JXTGホールディングス株式会社 名誉顧問

理事・監事

(平成30年3月9日現在・50音順)

役職	氏名	現職
理事長	吉川 弘之	日本学士院会員 東京大学名誉教授・元総長
理事	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 理事長 慶應義塾大学名誉教授・元塾長
理事	伊賀 健一	東京工業大学名誉教授・前学長
理事	垣添 忠生	公益財団法人日本対がん協会 会長
理事	田中 稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
理事	前田 晃伸	みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
理事	松本 繁幸	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CTO
監事	大江 忠	弁護士